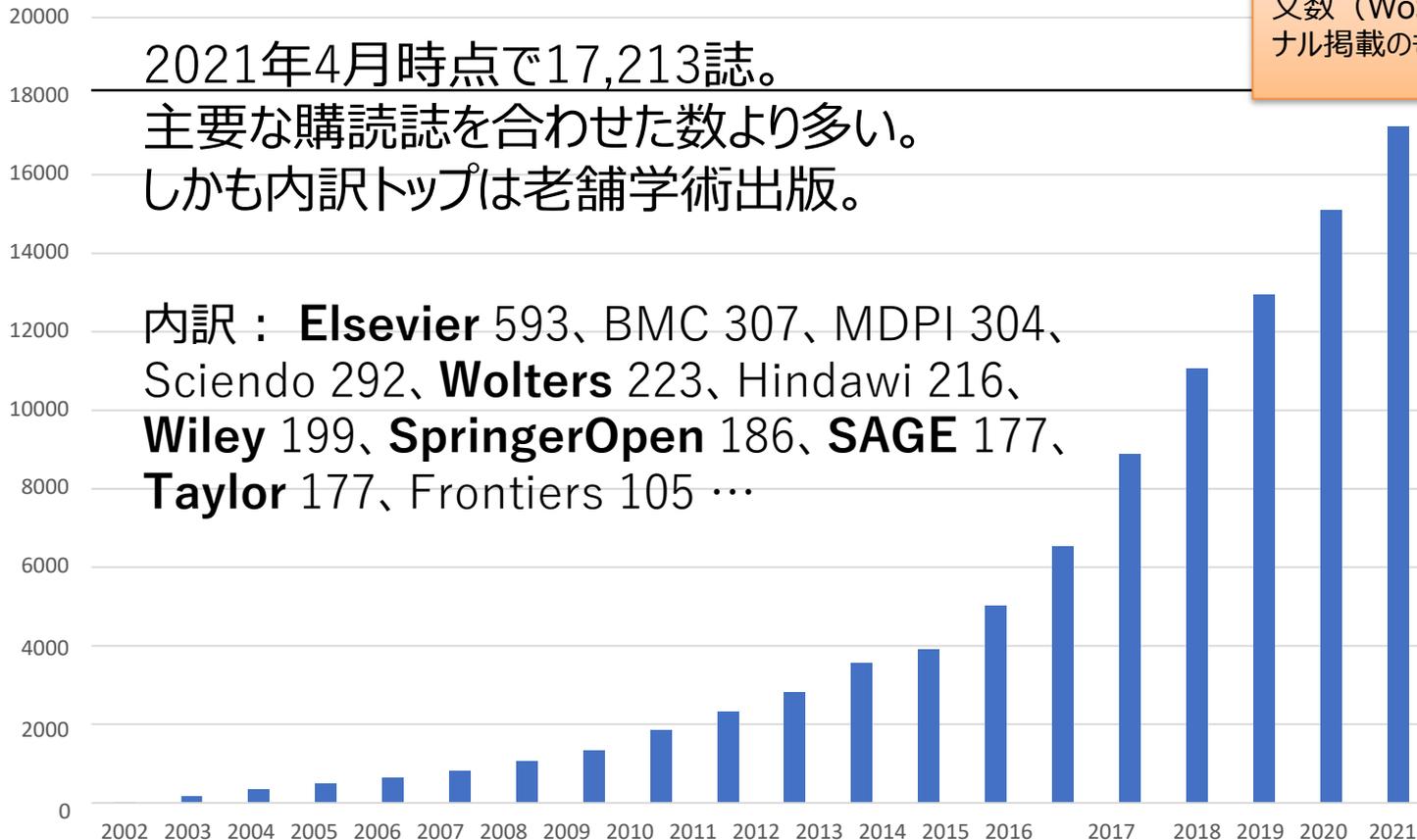


ホワイトリスト扱いされる DOAJ (Directory of OA Journals) の登録誌数

(<https://doaj.org/docs/public-data-dump/> 2021年4月29日登録の created\_date情報に基づく。登録以前にOA化している学術誌が大半。)

DOAJ-registered Journals



2021年4月時点で17,213誌。  
 主要な購読誌を合わせた数より多い。  
 しかも内訳トップは老舗学術出版。

内訳：**Elsevier** 593、**BMC** 307、**MDPI** 304、  
**Sciendo** 292、**Wolters** 223、**Hindawi** 216、  
**Wiley** 199、**SpringerOpen** 186、**SAGE** 177、  
**Taylor** 177、**Frontiers** 105 …

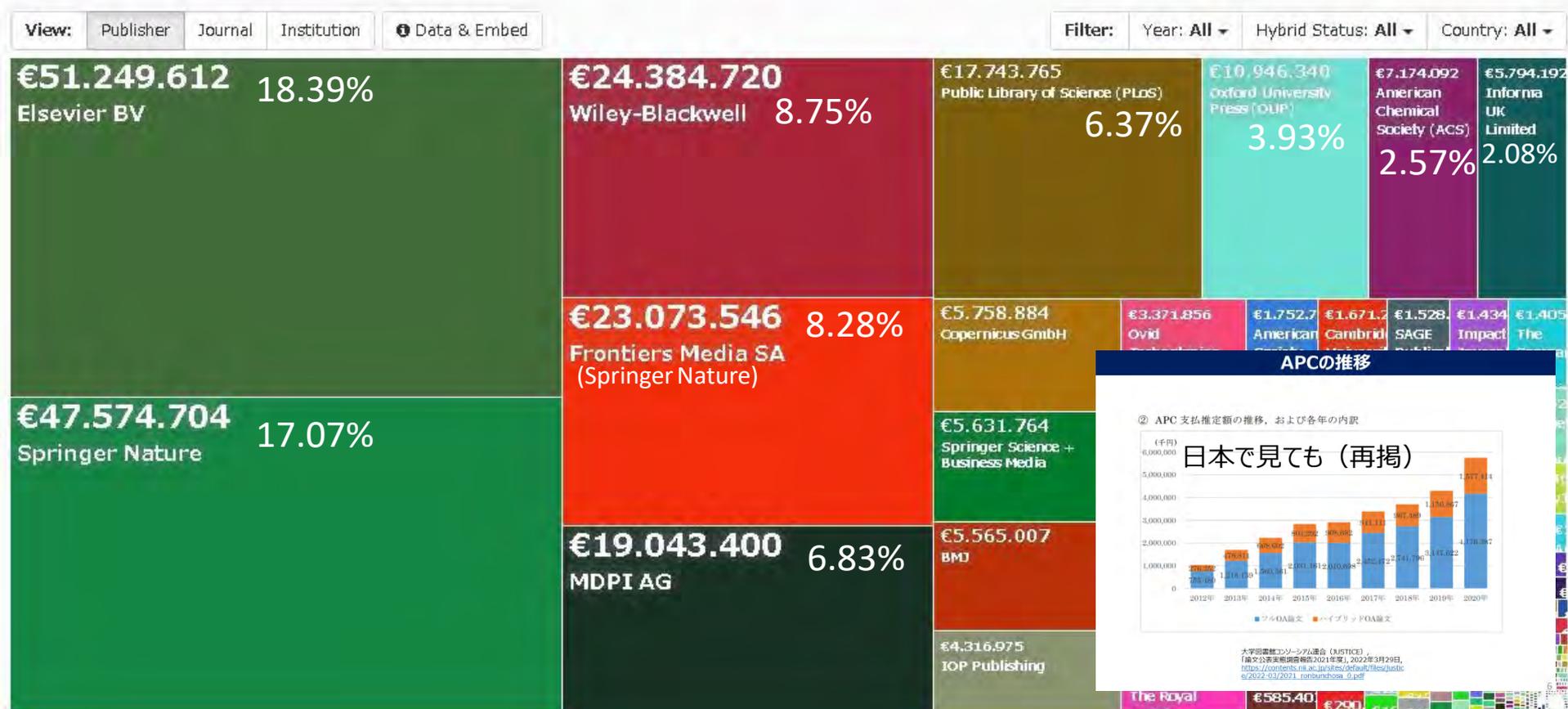
(さらに) 所属機関が日本の論文数 (WoS)の上位はOAジャーナル掲載のものが増加

<https://treemaps.intact-project.org/apcdata/openapc/> (02/10/2022)

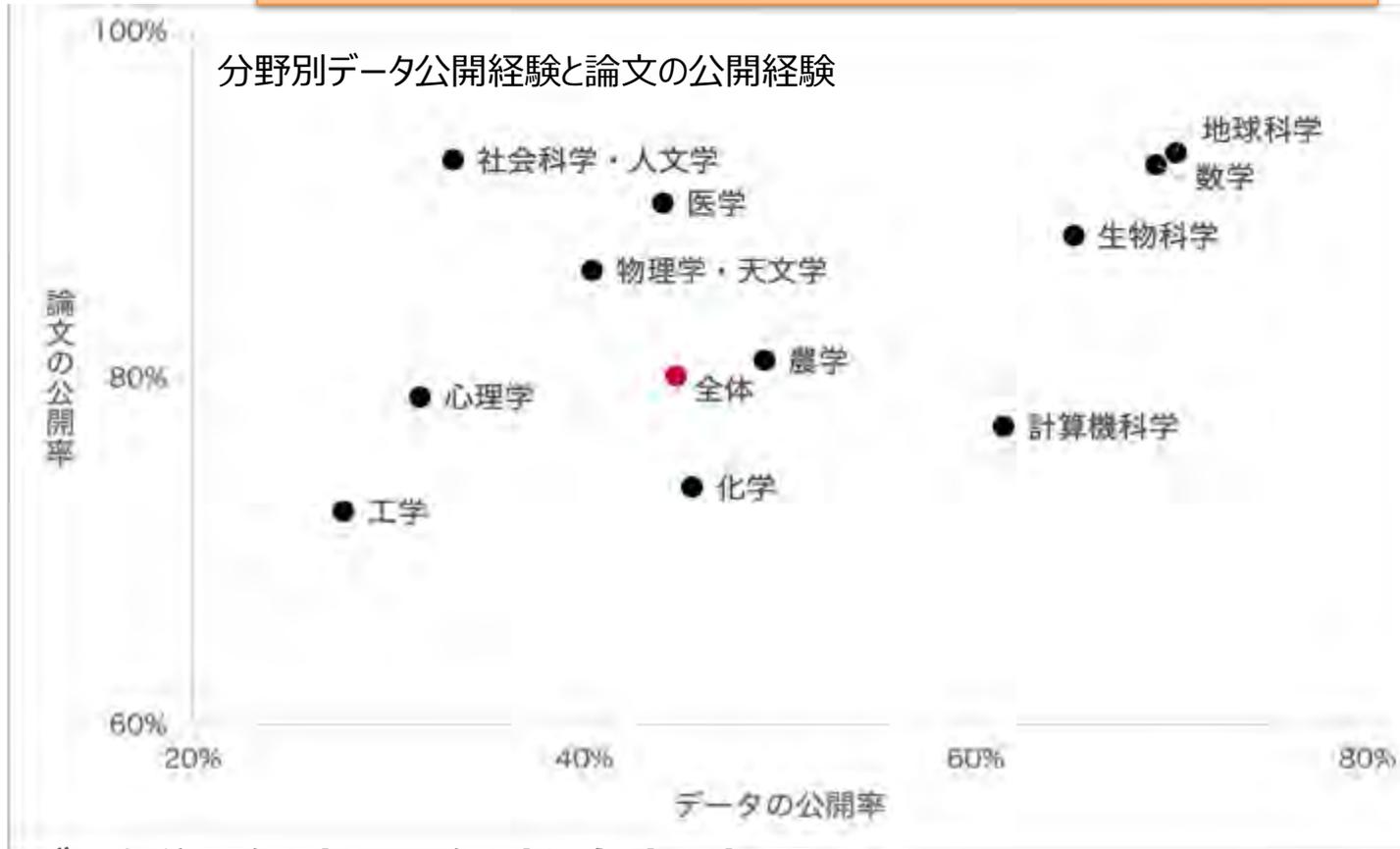
OPEN@PC

ABOUT OLAP SERVER GITHUB OPENAPC

OPENAPC OA誌で比較しても、支払の半分以上は学術出版大手 3 社が得ている。



- 研究データを“通貨”とする生態系を作るにはまだまだ時間がかかる
- 分野による差も大きい



- データ公開経験とOA経験に有意な相関はなし
- いずれも高いのは地球科学・数学、いずれも低いのは工学
- OA率が高いのは社会科学・人文学、データ公開率が高いのはCS



## 4.オープンアクセスの何が問題なのか？

## 購読費モデル

出版社



購読料問題

研究者

現状経費負担が無いことが多い

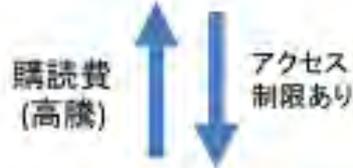
## OAモデル

研究者

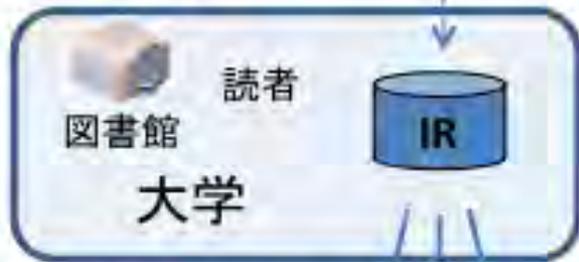
掲載料問題

(APC)  
\$500-3000

OA化するには著者が掲載料を払うところが多い



著者最終版の提供



購読権にもとづく  
購読者に限られたアクセス

アクセス  
制限なし  
(ただし著者最終版)

APC(掲載料)

Article Processing Charge

Green

出版社



アクセス  
制限なし

OA化による  
フリーアクセス  
(誰でも読める)

Gold

## 出版コストを誰が払うか

- 読み手が払う (購読費モデル)
- 書き手が払う (Gold OA モデル)
- 読めない人への別の手段を提供(alternative route) (Green OA)

## 1. 機関リポジトリに原稿を集めるインセンティブが乏しい

- ◆ 日本の機関リポジトリの中の著者原稿の割合は20%以下

## 2. 購読費モデルに依拠している

- ◆ 購読費高騰問題を根本的には解決できない
- ◆ ただし、研究者からみれば既存の学術ジャーナルに出してもOAになる点は魅力的？（これを論文単位でGold OAにするのがハイブリッドモデル）

## 3. 著者最終原稿と出版論文の違い

- ◆ Copy Editの存在
- ◆ Greenはあくまで呼び水か（故の出版者の許容）

## 1. 質の保証：粗製濫造を招くリスク

- ◆ OA出版者の乱立（沢山発行すれば事業高は増え、コストをかけなければ利益率が上がる）
- ◆ ハゲタカ出版者、詐欺出版者の存在
- ◆ ただし質の良いOA誌も存在する（研究者コミュニティ次第）

## 2. APC（\$0-\$5000）の設定根拠

- ◆ 出版のコストはいくらが適正なのか
- ◆ 出版者の言い値になっていないかどうかやってチェックするか

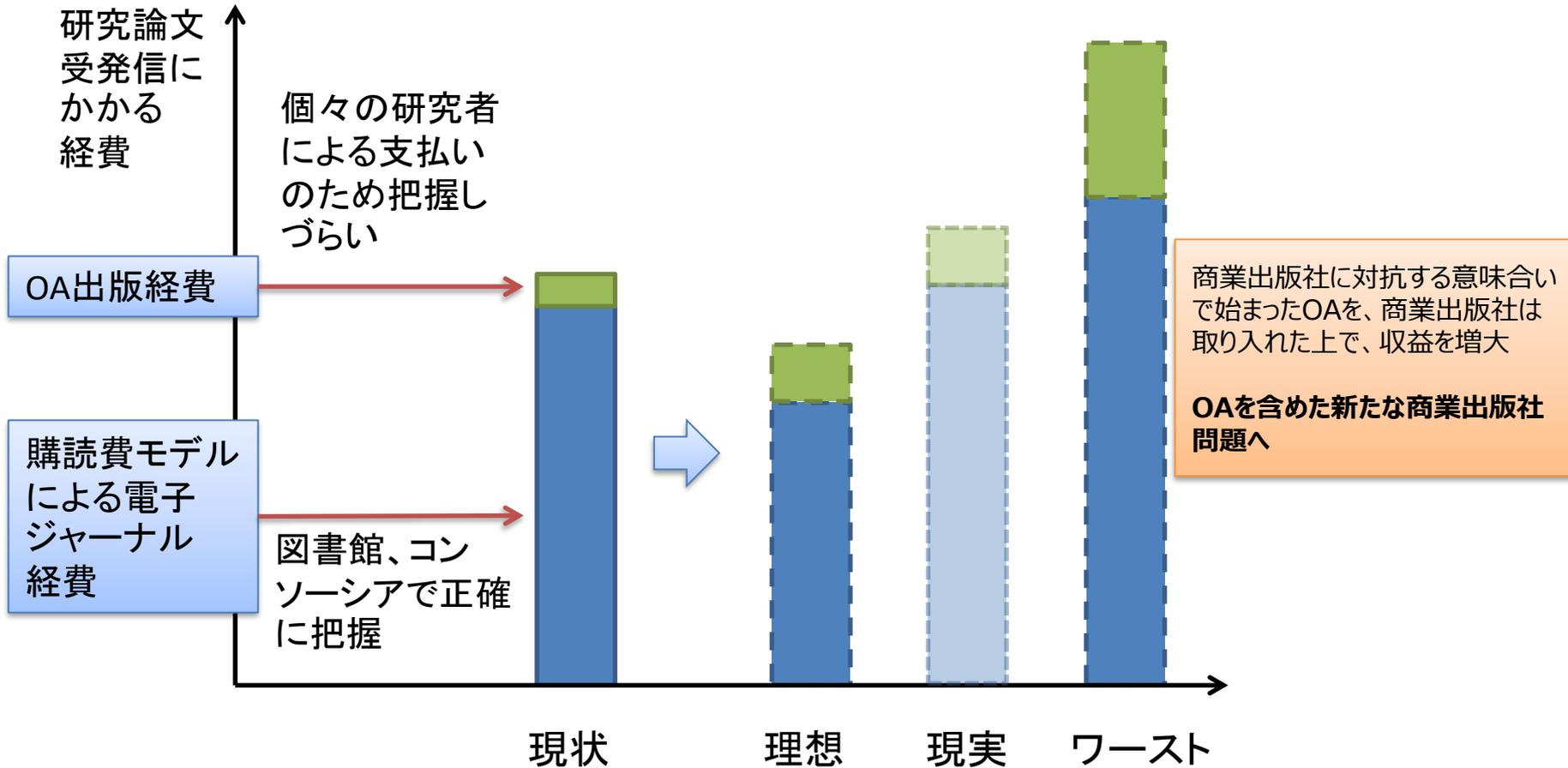
## 3. お金がないと論文発表できない→研究者格差、研究領域格差を生むリスク

- ◆ 研究費が相対的に多いSTM（科学・技術・医学）分野でないと対応できない。人文社会科学ではどうするか。

## 4. （質の高い）OA誌で発行したことに対する研究者コミュニティの評価が確立していない

- ◆ トップジャーナルの多くは購読費モデルを採用

## 購読費とOA出版経費の総額（受発信費）の増大が問題に



## 1. 日本のOAポリシーが国際的に見えづらい

- ◆ 欧米のような、積極的なステートメントが必要か

## 2. 購読費とOA出版経費（APC）を合わせた戦略的な施策がまだない

- ◆ 査読付き論文を中心とした生態系を維持するためのコスト≒日本の研究力の主要な一部を維持するコスト
- ◆ Green、Goldに対する方針自体は示しているので 1 と合わせて再整理し、何かしらのアクセント（追加施策等）をつけるかどうか

## 3. 研究者との対話が十分でない

- ◆ この問題の根源は研究者および研究者コミュニティの問題
- ◆ ただし、研究者と研究者コミュニティだけで解決できる問題でもない



## 5.オープンアクセスの展望

1. すでに出版者はインターネット上に巨大なライブラリーを持っている
2. これまで通り図書館からの購読費（アクセスライセンス料）収入はできるだけ維持し続ける
3. すべての論文がOAになっても事業継続性を担保するよう、APCモデルや転換契約を調整
4. 著者、機関向けサービス（ブランド力向上）を付加して稼ぐ
5. 論文はOAになることを前提に、その1次情報を加工、分析する2次情報サービスやコンサルティングサービスで稼ぐ

- メディアやサービスが論文以外に拡張
- お客の拡張：図書館から、研究者やURAに拡張